

第 48 回公害環境デー

2月1日(土)午後、エルおおさかで開催された「公害・原発をなくし、地球環境の保全と再生をめざす府民集会」に参加した。会場には200人が詰めかけ熱気につつまれた。

集会では、最初に池内了先生が「公害・環境問題を宇宙科学者の目で考える」と題して講演した。ブラックホール撮影成功や「はやぶさ2」の活躍の話題から、それが軍事技術に転用される危険性にも警鐘を鳴らす。私たちは宇宙の子ども、地球は素晴らしい宇宙の循環系と話をすすめる。その地球環境を破壊する原因、現代科学の限界の見極め、複雑系のむずかしさを具体的に説明する。そして私たちはどう対応すべきか、と問題を投げかけた。

休憩をはさんで、4団体からの被害者の訴えがはじまる。最初は写真の原発賠償関西訴訟原告団であり、団長の森松明希子さんが力強く訴えた。じつは2年前の集会で、原告団の訴えを聞いて原発訴訟に関心をもち、公判を傍聴するようになった。何回か「森松節」を聞いてきたが、この日の訴えは心の底まで響くものだった。司会の方も、思わず声を詰まらせた。私も9年近い福島からの避難の苦闘に思いを馳せ、つい目頭があつくなつた。つづく関西建設アスベスト大阪訴訟原告団、ノーモア・ミナマタ近畿2次訴訟原告団、大気汚染問題・未救済患者公害調停申請人からの訴えも、公害被害者の厳しい現状と課題を示すものであった。

続いて、次の3人から示唆に富む特別報告があった。早川光俊・CASA専務理事から「2020年からの10年が人類の未来を決める~COP25の結果と課題」、小林誠道さんから「Fridays For Future 大阪の活動」、西川栄一さんから「ソラダス2020に参加を!!」。とりわけ大学2年生の小林さんの報告は、世界中で「若者が活動する思い」が伝わってきた。行動しないことは、未来を見ないことと同じです。気候変動対策は、今行うべき。行動と変化を私たちは起こし続けます。

写真の集会資料集は69ページあり、文書報告としてプラスチックゴミや火力発電所問題などが掲載されている。紹介したいことは多いが、「基調報告」冒頭だけを掲載しておく。—いま世界では地球温暖化問題については、「気候変動」というより「気候危機」との認識に至っています。……今、公害環境分野で重要なことは、グレタ・トゥーンベリさんたち若い世代から湧き上がっている怒りに、社会的責任を負う世代がどう対応するかが求められています。災害被害を減らす社会づくりがいまこそ必要です。

(2020年2月3日)

